



みずみどり

2018年 11月15日 第129号

発行：いたばし水と緑の会事務局

年会費 2,000 円 郵便振替 00170-8-352508 いたばし水と緑の会
<http://mizumidori2.eco.cocan.jp>E-mail : mizumidori@nifty.com

〒174-0063 板橋区前野町 5-31-7 瀬田方 tel&fax3969-7124

台風で倒れたヒマラヤスギ

台風24号は、非常に強い勢力で日本に上陸、記録的な暴風でした。風のおさまった10月2日赤塚城址の様子を見に行きました。城址では枝折れはありましたが、倒木はみられませんでした。しかし赤塚公園の中央地区や番場地区ではヒマラヤスギが何本も倒れていました。

ヒマラヤスギは、マツ科でヒマラヤ原産、クリスマスツリーのような姿が美しく、広く植栽されています。倒れた木の根を見るとあまり発達しておらず貧弱で、もともと根の張りがよくない木のように見えます。同じマツ科のマツの根は、石油資源のない戦争中は燃料用（松根油）に掘り起こして集めたと聞きました。根が深く掘り起こすのが大変だったとか。同じマツ科でも、ヒマラヤスギの根はボリュームがなく、根の形状もマツと違うようですね。

赤塚公園は崖線の自然樹林地とそれに続く徳丸田んぼの跡地にできた公園です。田んぼがあったところは、盛土して地盤整備されましたが、盛土にはガラなどの残土が使われることが多く、盛土の厚さもあまりないため地盤にも問題があるようです。同じ田んぼ跡地にできた西台の緑地の



ヒマラヤスギも倒れて、都営三田線が運休になったそうです。ヒマラヤスギは造成された場所に植えられることが多かったため強風の被害も多かったのかもしれませんが。

しかし記録的と言われた台風24号の強風で、赤塚公園でもヒマラヤスギばかりでなくケヤキやサクラも倒れたそうです。地球温暖化の影響で異常気象が日常的になるといわれていますが、私たちも人ごとではなく、エネルギー問題に関心をもっていかなければならないと思いました。



なつかしい雑草 チカラシバ

10月6日(土)の「エコライフフェア秋」では、「みのりの秋」だからと「種」をテーマに、木の種ばかりでなく草の種も展示しました。野草(雑草)の花も種もありそうでない。「あそこにあったはず」と行くと草刈の後だったり。けれど探すとあった、あった。当日の朝に空地や道ばたで採取してびんに挿しました。野草も美しく、ちょっとした生け花です。ツククサ、ススキ、イヌタデ、エノコログサ、カヤツリグサ、ミズヒキ、それにヨモギ、メヒシバ、チカラシバ、などなど。来場者も興味を持って見てくれました。「木も切るし、草も刈ってしまうから、ドングリや草の種など見かけなくなったね」とか、「これ全部板橋区に生えている植物なの？」などの感想も聞かれました。

ところで、チカラシバを見たことがありますか。次頁の写真のように種がブラシのようになっていて、存在感のある雑草です。根が張ってなかなか引き抜けないので、チカラシバというそうです。私が子どもの頃はどこにでもあり、悪ガキはこの草の先端を縛って、通る人の足を引っかけるいたずらをして喜んだそうです。私は穂を親指と人差し指の間でしごいて、栗のイガのようなものをつくって遊びました。矢のようになった種はくつき虫で、衣服に刺さるとどんどん中に入って、なかなかとれません。木村さんは、チカラシバもバッタ広場にしかないと言います。そのチカラシバが今年バッタ広場の外側一面に出現しました。



去年までチカラシバはバッタ広場の中にだけ生えていました。今年は、6月からバッタ広場の外側幅10mの草刈を止めていただきました。たちまちメシバ、オヒシバの草原になり、そのなかに混じていた濃い緑色の草がチカラシバでした。なぜチカラシバが出てきたのか。バッタ広場のチカラシバの種はいつも飛んできていた、そして草刈をしなかったから。植物を自然に任せるとすごいですね。私たちは服にくっついたチカラシバの種をここでつまんで取って服をきれいにしていました。それもあるでしょう。それがくっつき虫の戦略ですね。左下の写真を見ると、刺さったら抜けない「くっつき虫」だと納得されるでしょう。



この原っぱにササが侵入してきました。ササは見つけ次第刈っています。クズも出てきました。これも抜き取っています。こうしてイネ科などの草だけの原っぱにする方針です。クヌギとコナラの種が

芽生えてきました。今年は雨が多くドングリの発芽にはよい環境だったのかもかもしれません。目印をつけておいたクヌギは行方不明になりましたが、芽生えたコナラのドングリは陽差しを受けてどんどん成長しています。この草原は冬には刈って、1年でリセットします(コナラの芽生えはちょっとの間お目こぼしをして様子を見ます)。どうなるのかたのしみです。

秋に出会った生き物達

トンボ池とバッタ広場は私たちの定点の活動フィールドです。素通りするだけでは見えてきませんが、観察会や腰を据えて手入れをしていると生き物達が見えてきます。そして生き物達に出会えるとうれしくなります。最近昆虫等に興味を持つ人が増えてきて、それはうれしいのです

が、採集しないでそっと見るだけにしてほしいと願っています。

秋も深まると、昆虫たちは産卵を終えて死んでいきます。カブトムシやタマムシの死骸が見つかったり、あの強かったカマキリも卵を産むと冬にはいなくなってしまう、生き物達の短い命が終ります。幼虫や成虫で越冬する虫もいます。草を刈りながら彼らの越冬場所を破壊しているような申し訳なさを感じます。自然との共存は一つ一つの命に執着するわけにはいかず、言葉ほど簡単ではありません。

赤塚公園の観察会やバッタ広場の手入れで出会った秋の生き物達をいくつかご紹介しましょう。



左上：刈った草を片付けていたら出てきたカブトムシの幼虫。数日後にはいなくなった。よい環境に移動したのかも知れない（10月7日バッタ広場）。

右上：ゴマダラチョウの幼虫。冬は身体の色が枯葉色になり、地面に降りて枯葉にくっついて春を待つ。（10月7日）

左下：ジョロウグモ。9月末頃から見かけ、だんだん大きくなり、丸々と太ってきます。卵を産むと死んでしまいます（写真は10月14日バッタ広場で撮影）。



北前野小学校の生きもの探検で 出会った生き物達から（10月9日）

写真左上：中央上にいるキリギリスと、左の葉の下の
カマキリ（頭が見える）が獲物を狙っている。

写真右上：カマキリのカマがキリギリスを抱え込んだ
瞬間。

写真左下：土から出てきたセミの幼虫

今年は暑かったから、出てくる時期を間違えたのかも
ね。そういえば秋になって季節はずれのセミの声を聞
くことがありますね。



つかまった大きなヒキガエル（左）

9月14日 観察会に参加した子どもが捕まえた
すごく大きなヒキガエル。どうしても飼いたいと
容器に入れて持ち帰りました。

バッタ広場の手入れをしていると、大きなヒキガ
エルがのっそり出てくるのがよくあった。ヒキ
ガエルは産卵時には水辺に来るが、ふだんは人目
につかず茂みなどにひっそりと隠れ、夕方から行
動して、ミミズやコオロギなどを食べる。自然豊
かなバッタ広場から、狭いケージで飼われるよう
になったヒキガエルは今どうしているだろうか。

バッタ広場で生きもの探検授業

学校教育における環境教育を検討するプログラム部会の取り組みとして、10月9日、NPO法人センスオブアースが主催してバッタ広場で生きもの探検の授業が行われました。

参加したのは北前野小学校3学年2クラス（児童45人）と担任・校長先生、環境課環境教育係係長と担当者、赤塚公園サービスセンターから本間さん、主催側として寺田先生とセンスオブアースの会員がサポーターとして10人ほど。当会は3人。会も初めての試みで、バッタ広場の安全確保や子どもの理解度（理科の授業でどこまで学習しているのか）など不安もありました。

子供たちの生きもの探検の感想はみずみずしい



10月9日の子供たちを迎えての観察会はどうなるか心配でしたが、やって良かったと思える第一歩だったと思います。観察会の間は慌ただしく、子供たちの安全などに気を取られて観察する様子をゆっくりと見ることは出来ませんでした。観察会后、クラスごとに集まって発表する場の一クラスに参加し、担任の先生と柳先生の司会で子供達の感想を聞くことが出来ました。

●板橋にこんなにたくさんの木

や草があるとは思わなかった。赤塚に木や草がいっぱいあって自然のある所にはこんなにたくさんの虫がいるので驚いた。

- 動かない茶色い棒のようなものがあると思ったら、カナヘビだった。見つからないようにそっと動かなかった、すごいと思った。
- 緑の草の中に花がいっぱい咲いていてきれいだった。良い匂いもした。
- セミの幼虫が土の上を歩いていて色がとてもきれいだった、初めて見た。
- カマキリは緑色だと思っていたけれど茶色のもいた。
- 都会には自然がなくて虫にはかわいそうだと思ったけれど、真剣に探してみると虫はいた。
- 緑色の虫が緑の葉っぱに隠れていて分からなくしている。
- キリギリスがいて、それをカマキリが狙って捕まえていてすごいと思った。 等々

子供達の感想はとてもみずみずしくて私は感動しました。一つ一つの経験が子供の心に残ってくると良いと思った。100の本や映像よりも一つの本物の経験がとても大切なはず。私自身が子育てしている時に、息子が幼児のときに「可愛い」と言ってイモムシに頬ずりしていたこと思い出しました。

観察会が終わってまとめて頂いた子供達の感想文の中に「虫を守っている人たちが何人もいるのにおどろいた」という感想があっとうれしかった。バッタ広場を始めて20年近く、楽しい事もありますが夏の炎天下の作業は結構厳しいものもあつたりしますが、子供達の感想に励まされたように思います。若いときにアフリカマサイマラ国立公園のレンジャーをすごいと憧れましたがバッタ広場のレンジャーに?なれたらと思えました。北前野小学校の子供たち、来年もきてください。良い経験をいたしました(瀬田 政江)。



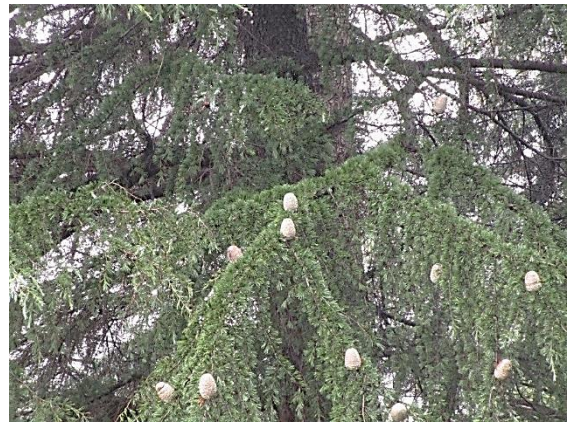
どんぐりまつりで秋を楽しんだ

都立赤塚公園は、荒川低地と武蔵野台地の間にある崖線にあり、東西2 kmほどの帯のように細長い公園です。いたばし水と緑の会の活動フィールドは、公園の西のはずれにある城址地区にあり、イベント会場である中央地区から離れているため、あまり足を踏み入れる場所ではありませんでした。

私たちは、そのあまりなじみのない会場での「赤塚どんぐりまつり」に今年初めて参加しました。何度か下見をして、すぐ近くの徳丸が丘緑地地区をフィールドに「どんぐりの森で自然のたからものをさがそう」をテーマに1時間ほどの自然観察ツアーを午前・午後1回ずつ実施することになりました。

会場から出かけるツアーは初めて。どうなるかわかりません。参加者数にとられず、気楽に楽しむことにしました。さて午前の参加者は、自然の中で散策したかったという私と同年配の女性と自然の宝物っておもしろそうと思った親子2組(小1と幼稚園児)の5人でした。参加者は近くに住んでいて公園の横を通ることはあっても、中を歩いたり、山道を歩いたことがなかったそうです。ゆっくり歩けば見えてくる「たからもの」、みんなで楽しみました。

いつもは通らない歩道橋で5号線を渡って徳丸が丘緑地地区に向かいます。歩道橋からヒマラヤスギの球果(ヒマラヤスギの松ぼっくり)が見えて得した気分(写真)。山には、松ぼっくりやいろいろな木の実、色づいた葉っぱ等々、落ちていました。ミズヒキ、ツククサ、イヌタデ、ヒメジョオンなどの花々。子どもが「お花畑みたいね」と言い、その通りでした。



活動のお知らせ

運営委員会：11月24日（土）12：30～13：30

12月22日（土）12：30～13：30

作業・観察会の後に報告や活動内容などを相談します（ラーメンしらかば）。

連絡先；坂本（090-4618-1295）

●会報の発送は奇数月。お手伝いできる方はよろしく

1月19日（土）の予定

活動の問い合わせ等は事務局 瀬田（3969-7124）まで

1 赤塚ピオトープ（赤塚トンボ池、バッタ広場）の手入れ

11月24日（土）10：00～11：30 バッタ広場クズ、ササ、外来種の抜き取り

12月22日（土）10：00～11：30 バッタ広場クズ、ササ、外来種の抜き取り

集合は赤塚トンボ池前（板橋区立美術館そば）（予定を変更する場合があります）

雨天の場合は中止または延期します。連絡先：坂本（090-4618-1295）

2 トンボ池・城址・バッタ広場の自然観察会

日時：12月9日（日）10：00～11：30

1月13日（日）10：00～11：30

集合場所：赤塚トンボ池（板橋区立美術館そば）

持ち物：飲み物、あれば昆虫網、図鑑、ルーペ、双眼鏡

小雨でも実施します。トンボ池はいつも入れないフェンスの中も観察します。

3 日暮台公園樹林地の観察

12月1日（土）、1月5日（土）いずれも10：00～11：30

日暮台公園前集合（連絡は坂本 090-4618-1295まで）

4 赤塚公園クリーンアップ強化月間

水と緑の会では城址地区のゴミ拾いをします。

12月8日（土）10時～11時半 雨天の場合12月15日（土）10時～11時半、

集合場所 板橋区立美術館横の赤塚とんぼ池前 連絡先：坂本090-4618-1295

●ピオトープボランティア大歓迎

当会は、自然と共存するまちづくりをテーマに、生き物のすめる水辺（赤塚トンボ池）や草地（赤塚公園バッタ広場）などの観察と手入れ作業、自然樹林地の定点調査などを行っています。

作業や観察会で身近な自然を発見するのが楽しいです。

●会員になってくださると板橋の自然情報を中心とした会報「みずみどり」（隔月発行）お送りします（年会費2000円：振込先は表紙に記載）。